

木津川市教育委員会会議録

令和4年第1回木津川市教育委員会定例会

○日 時：令和4年2月2日（水） 午前9時30分から午前10時32分まで

○場 所：木津川市役所5階 全員協議会室

○出席者：森永重治教育長、有賀やよい委員、小松信夫委員、高橋史代委員、佐脇貞憲委員
（事務局）竹本教育部長、遠藤理事、大村理事、吉岡教育部次長兼こども宝課長、
木下学校教育課長、山口学校教育課主幹

1. 開 会 教育長
教育長あいさつ

2. 前回会議録の承認
委員から異議なく承認された。

3. 議 事
《報告第1号 木津川市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の
一部改正について》
教育長が、事務局に説明を求めた。
事務局が、議案書に基づき説明を行った。
〔説明〕
令和3年第12回教育委員会定例会で臨時代理の承認を受けた標題の件について、令和3
年12月28日付けで教育長が決裁し、告示したことを報告する。

4. 教育長報告（令和3年12月24日～令和4年2月2日）
教育長が、事業報告に基づき報告を行った。中でも次の点について、説明があった。
・1月9日 木津川市成人式が行われた。

5. その他

（1）今後の行事予定
事務局が、今後の行事予定について説明を行った。

（2）令和3年度全国学力・学習状況調査結果広報紙「きづがわっ子」について、事務局が資料
に基づき報告を行った。
〔説明〕

令和3年5月27日に実施した令和3年度全国学力・学習状況調査結果を基に、全国との比較や木津川市の子どもの学力と生活実態の状況、GIGAスクール構想に基づくパソコンの使用状況について説明。

【質疑応答】

委員：全市民に配布したのか

教育長：すべての子ども、保護者向けに配布した。ホームページに掲載したのか。

事務局：市の広報紙2月号には概略を載せたが、ホームページにはまだ掲載していない。

(3) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について、事務局が、資料に基づき説明を行った。

〔説明〕

小学校5年生男女、中学校2年生男女の結果について、全国平均と比較しながら木津川市の特徴を説明した。

【質疑応答】

教育長：体前屈が平均より良くないのは、体が硬いということか。やせ型も多いようだが。

事務局：そのとおり。中学校女子がやせ傾向にある。体型を気にすることも影響していると思われる。

委員：よく似た種目なのに持久走とシャトルランで差が出るのはなぜか。

事務局：持久走は一定の距離を定めて行う。シャトルランは体育館内を往復していることが影響していると思われる。学校がどちらかを選択しているかも影響していると思われる。

教育長：個人の記録は各個人に返しているのか。

事務局：結果は個人ごとに個票を返している。

(4) 令和3年度第2回いじめ調査結果について、事務局が資料に基づき説明を行った。

〔説明〕

いじめアンケートの結果について小中学校別に傾向を説明。小中どちらも相談対象にスクールカウンセラーがあがっている。認知件数は令和2年度2回目以降ほぼ横ばいである。

【質疑応答】

委員：学校別の結果を見ると、小学校2校はA（行為が止んでいない）が飛び抜けて多いが、まだ解消していないのか。

事務局：母体数が少ない学校は割合にすると少数でも高くなる。ずっとではなく、たまに嫌なことを言われるなどはAとして認知し追跡したいと考えている。件数としては多

くない。

委員：数字を見る限り、いじめが終わっていない。

事務局：A（行為が止んでいないもの）が少なく、C（行為は止んでおり嫌な思いもないが、3ヵ月未満のもの）が多いのが通常の形である。D（解消）を目指している。

教育長：重大事案はないのか。

事務局：ない。

教育長：昨年度重大事案として報告されたものは第三者委員会での調査対象となったが、一定期間後報告されるのか。

事務局：今年度中に報告する。被害者とされる子どもの保護者に確認する。

委員：この結果は保護者に知らせるのか。

事務局：いじめ防止等対策委員会で報告した後にホームページで公表する。

委員：反響はどうか。

事務局：全体の数より、自分の子どもの学校が気になるようである。年度末に学校評価の中で実施している保護者アンケートには、いじめに関する記述もあるが、アンケートの数字についてはあまりない。

委員：いじめについては保護者と教育委員会で正反対の評価が出ることもある。不登校の子どもを見ているが、学校や教育委員会はいじめではないとしても、子どもからはいじめが原因と出てくる。保護者もそれに同調し、結果長引くことがある。今年度解消件数が少ない。スマートフォン対策などは熱心にしていただいているが、直接コミュニケーションを取ることが苦手な子が被害意識を持ち続ける。発達障害が関係することも多い。保護者と学校が共通して対応できる資料に利用してもらいたい。

事務局：利用している学校もある。

教育長：様々な課題がある。成長過程で折り合いをつけることを学ぶことも大事。早期発見のために裾野を広げることは必要であり、子どもの発達途上の問題は先生の指導上区分する必要がある場合もある。

委員：スクールカウンセラーへの相談が増えているのは良いこと。担任の先生からの働きかけもあるのか。

事務局：窓口が多いことは良いことと思う。

委員：小学校は「相談した」が減少し、中学校は増加している。

事務局：最近の傾向である。

委員：一人で抱え込まないよう指導を続けていても数字に表れにくいのが、続けることが必要。

委員：家族に相談した率は増加しているのでは。

事務局：小学校は前回より割合的には下がっているが、中学校は上がっている。全体的に先生に相談する割合が増加している。

委員：学校の努力の表れか。

事務局：引き続き相談するよう働きかけることが必要。

委員：コロナ禍で先生と1対1の相談の機会はなくなっていないか。

事務局：年2回、1人10～15分程度の面談の時間を作っている。

(5) 学校・園・児童クラブ等陽性者発生・閉鎖状況について、事務局が資料に基づき説明を行った。

[説明]

令和2年6月から令和4年1月までの学校・園等での陽性者発生・閉鎖状況について説明。令和4年1月だけで、令和3年の1年間の陽性者数を上回る状況である。クラスターは発生していない。

【質疑応答】

委員：学校の疲弊度はどうか。感染を憂えて欠席する児童生徒はいるのか。

事務局：学校の疲弊度は高い。陽性者は発症2日前まで行動を追う。保健所の判断が遅れる間に蔓延する危険性を避けるため、学校で放課後や休日の行動も聞き取り、リストアップして保健所に渡している。病院も逼迫していて夜遅くに結果が出る。土日も状況把握する状態が続いている。感染することが不安で欠席する児童生徒もいる。中学3年生は受験もあり、木津中学校では濃厚接触者等も合わせて約100人の欠席者がいる。

教育長：令和2年8月に初めて陽性者が発生したときには学校閉鎖した。令和3年1月から12月の間も原則学校閉鎖で様子を見た。現在は、文部科学省の指導も踏まえ、学校はできるだけ開けて、感染拡大防止のため学級・学年閉鎖をしながら学習保障をしている。木津川市内では校内クラスターは発生していない。感染経路を追って濃厚接触者を特定し、休んでもらう。該当者はオンライン指導を行うとともに、全体の学習保障をしっかりしていく。

(6) 次回教育委員会は、令和4年2月21日（月）午後2時30分から開催予定とすることを確認した。

教育長が、会議を閉会した。